

おやじ達の熱い思い
おやじが動けば世間が変わる、
おやじが動けば
地域・日本が変わる



松山平野が見渡せる展望台で記念撮影



西松 秀樹
桑原中学校おやじの会
桜担当

3階から何か落とされた。窓ガラスが割れる。廊下でケンカ騒ぎ!多くの子どもたちに問題は見られないのに。ほんの一握りの子どもたちへの対応に苦慮し、すべての関係者が暗中模索の中で、警察が事件として対処する事態となった。平成15年秋の出来事でした。

おやじの会発足

ちょっととしたボタンのかけ違いから始まった校内暴力。そんな中で保護者の学校バッシング。しかし、先生たちの疲れきった表情を見れば、いま置かれている学校の状況がどんなものか。そんな状況の中で、我が子を守ってやれるのは「おやじ」しかないかと実感したのです。



おやじの会のメンバー

おやじの会活動の取組と実践

まずは、先生との親睦を深めるため、「桑原を良くする会」として女性保護者を含めて会合を学校で頻繁に持ち、活動内容について検討をしました。生徒会役員の「やる気・主体性」を高めるために、何回も学校に足を運び、おやじの夢と子どもたちの希望のために汗をかくことで「おやじ」の存在感を取り戻そうと考えました。チャレンジの始まりです。

最初の一步

登校時に、校門前であいさつ運動を教職員・生徒会・保護者・おやじの会が中心となつて、七時半〜八時の間、学校が休みの日以外は毎日実施しました。最初は「おはよう」の第一声がなかなか出てこなくて緊張してしまいましたが、人に声を掛けるといふことは本当に「勇気があること」だと実感させられました。おやじが立つことで違和感があつた子どもたちも、徐々に慣れて小さな声ですが、あいさつを返してくれるようになりました。



おやじの遊び心

中学校裏手にある淡路が峠。おやじも子どもの頃遊んだ裏山で、地域の大人と子どもが一緒になって何か出来ないか検討しました。

淡路が峠には、展望台があります。この展望台は平成9年に設置され、高さは松山城の約2倍、273mあります。天然木を使用しているため、風雨にさらされ傷みが目立ち始めました。そこで、おやじの会では、地域学習・生涯学習の一環として、防腐剤塗装と登山道の道普請を実施する為の行動を起こしました。公民館に趣旨説明すると、即合意。主催は公民館、協賛はPTA・おやじの会でと、トントン拍子で話が進み出しました。この時、「話はしてみろものだ」ということを実感しました。



そして、平成17年4月3日(日)に、地域・公民館・教職員・生徒会・おやじの会、総勢50名で第1回目の作業を実施しました。展望台周辺のゴミ拾い、桜苗木の植樹(4本)と、忘れられない一日となり、おやじと子どもたち、そして地域の方々と一緒に汗をかいたことで、連帯感が生まれ、将来に亘つての結びつきができたと確信したのです。忘れてはいけないPTAの女性陣の炊き出し。下山後にカレー・うどん等をふるまってもらいました。新聞社や地元CATVの取材もあり、おやじたちも疲れを忘れ、後かたずけにも精が出ます。

地域が動きだす

公民館主催としたことで、地域の識者25名で平成18年7月に淡路が峠協議会準備会が立ち上がり、ついに松山市が推進している「まちづくり協議会」に参加。平成19年4月、桑原地区挙げての「まちづくり協議会」の中心事業に、淡路が峠整備道普請が取り上げられました。

淡路が峠の桜植樹と地域協力

平成18年4月、第2回展望台塗装と桜植樹(100本)を実施。これには、松山市にある日本校交流協会の助力があり、向こう10年間は100本単位で提供していただけることと、「おやじ」ヒートアップ。平成19年3月には、参加者180人で200本の桜の植樹を実施しました。

「いつまでも夢は大きく、子どものように澄んだ心で接したい」おやじの会には、定年はないのです。



防腐剤の塗装をする中学生

淡路が峠の桜植樹と地域協力

平成18年4月、第2回展望台塗装と桜植樹(100本)を実施。これには、松山市にある日本校交流協会の助力があり、向こう10年間は100本単位で提供していただけることと、「おやじ」ヒートアップ。平成19年3月には、参加者180人で200本の桜の植樹を実施しました。



桜苗木の植樹方法を教える「おやじ」